

## 第2回 第3次向日市環境基本計画策定委員会

### 会議録(要約)

開催日時 令和3年10月22日(金)午後13時30分～15時35分

開催場所 向日市役所第7会議室(環境政策課)

出席者 (13名)

三輪 信哉	大阪学院大学国際学部 教授	委員長
岩渕 善美	平安女学院大学国際観光学部 教授	副委員長
永安 正洋	日本電産株式会社 IR・CSR推進部長	
脇本 一孝	イオンモール株式会社 イオンモール京都桂川 オペレーション・マネージャー	
西川 克巳	向日市観光協会 会長	
平野 律子	第3向陽小学校 校長	
藤原 京子	市民公募	
長谷川 みゆき	市民公募	
小山 清一	向日市区長会	
木原 浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター 副センター長	
太田 敦士	京都大学大学院農学研究科・技術職員	
五十嵐 真由美	京都府乙訓保健所 技術次長兼環境衛生課長	
林 千香	向日市環境経済部長	

欠席者 (1名)

宇津崎 則子 向日市商工会 女性部長

事務局

木村 正義 向日市環境経済部主席課長(兼)環境政策課長  
横山 由美子 向日市環境経済部環境政策課主幹(兼)環境対策係長

森 洋市 (株)サンワコン 環境技術部

## 次 第

### 1. 開会

### 2. 議事

- 1) 計画体系案について（資料1）
- 2) 温室効果ガス排出削減目標について（資料2）

### 3. その他

次回策定委員会について

### 4. 閉会

#### 〔配布資料〕

- ・ 資料1 計画体系案について
- ・ 資料2 温室効果ガスの将来排出量と削減目標について
- ・ 参考資料1 基礎調査報告書
- ・ 参考資料2 アンケート調査結果報告書

## 1. 開会

### 事務局

---

(議事進め方 (WEB と対面)、欠席委員報告等 省略)

### 委員長あいさつ

---

(委員紹介等 省略)

### 事務局

---

(資料確認、公開等傍聴等 省略)

## 2. 議事

### (1) 計画体系案について

#### 委員長

---

では、議事に入る。

手元の次第に基づき、順に進める。先ず前回協議のおさらいを事務局から願います。

#### 事務局

---

(報告説明)

#### 委員長

---

以上のところはよろしいか。

それでは次に中身に入って行く。今の報告を含めていまから検討をしていく訳であるが、次に議事2の1の「計画体系案について」を議題として検討していきたいと思う。では事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

---

(資料説明 「計画体系案について (資料1)」)

#### 委員長

---

参考資料2にアンケート調査結果概要がある。この辺の骨子に対する影響を説明いただけないか。

#### 事務局

---

(資料説明 「アンケート調査結果概要 (参考資料2)」)

#### 委員長

---

このアンケートは、市民、事業者、中学生に行った。回収率もそこそこあるので、市民、中学生、事業者の声を反映していると考えられる。これらを考慮しながら私たちは考えていかなければならない。

それでは、まず議事としては資料1の骨格である「計画体系案について」がこれで良いか、このような議論をさせていただきたいと思う。意見があればよろしくお願ひしたい。

## 委員

---

前回、この気候変動地球温暖化が世界的に見て一番の課題なので、向日市でもこれを一番にして欲しいという意見取り入れていただいた。アンケート結果でも、やはりそう市民の皆さんがそう思っているということで、一番にしてもらって凄くいいなと思った。その他、全部で6つの基本目標があるが、私の実感として「都市環境 4 番目」の「むこうの緑と歴史が映えるまち」があるが、例えば公園の面積や緑地化などが、多分ここに入ってくると思う。生活していて思うのが、向日市って面積小さく、そこに子どもと暮らしていて、「本当に公園が少ない」「子供が遊ぶ場所が無い」、「道路がすごく狭くて危ない」。これらはこの都市環境に入ると思ひ、改善して欲しいので、都市環境を2番目若しくは3番目ぐらい、結構上位に持ってきてもらいたい。あと1点、目指すべき環境像に「うるおい環境都市むこう みんなが優しくするまち」を変えることは考えていないと言ったが、この環境像はピンとこない。6つの目標を1つに貫くような、もっと力のある言葉があると思ひている。やはりパッと聞いて「あっ、そうなんだ」と伝わるような環境像が必要なんじゃないかなと思ひている。先ほどワークショップができそうだと聞いて本当うれしく思ひているが、そのワークショップでこの環境像をみんなで考えることができないかと思ひた。

## 委員長

---

3点挙げていただいた。都市環境で道路の狭さと公園の少なさが強く感じるので、都市環境の項目を上にあげていくことと、環境像がぼやけているので、ワークショップで考えていくことは如何かと言う意見であった。事務局、如何か。

## 事務局

---

まず、1つ目の都市環境を上位にならないかについては、上にあるから重点を置くという訳ではなく、地球環境については特に問題視されているので上位とした。2つ目の環境像については、「うるおい」の「う、る、お、い」にそれぞれ、うは「うれしい」、るは「ルール」、おは「おおらかさ」、いは「いたわり」ということ表している。10年前の前計画策定時にこの環境都市像を皆さんが描いて作ったものなので、これは継承していきたいと思ひている。もし、ワークショップの中で良い意見があれば考え無くはないが、継承すべきではないかと思ひている。

## 委員

---

そういう「うるおい」に意味があったこと全然知らなかったので驚いた。私も今回、本日寄せていただく前にいろいろと見直していたが、質問したいなと思ひていたことが先ほど回答があったので、良かったと思ひます。今言われたように、気候変動のことが最重要になってくるだろうと思ひるので、良かったなと思ひている。あと策定委員会の回数だが、年度を跨ぐと言うお話があったが、回数が減るよりはその方が良いでしょうとしっかりと回数重ねてやっていたら良いと思ひます。先ほど話された道路とか公園であるが、向日市は道路の歩道がやっぱり狭いため、ベビーカーや車椅子などの通行が非常に危険である。やはり子供が十分遊べるような公園が少ないと思ひるので、そこを充実していったらいいなと思ひます。また、中学生のアンケ

一トの括弧2で、先ほど説明の時に話されなかったが、もっと取り組むべきという割合が最も高いのは「地球温暖化防止に向けて行動する」と真ん中辺りに書いてあり、中学生もちゃんと考えてくれているのかなと、そこはしっかりとみんな考えていきたいと思う。

## 委員長

---

委員の意見の中にもあった、歩道の問題あるいは公園の問題について、新たな計画体系というところを見ていただくと、都市環境の中の施策の方針の3つの中には入らない。施策としては入れ込みにくいと思った。とすると、先の方針のところでは何かさわるということが必要になってくるかも知れない。如何か。

## 事務局

---

道路環境という意味で言うと、道路通行のしやすさ、安全性を求める、そういった部分について環境を整えることは理解できるが、この環境基本計画の中に、それをどのように反映していくかについては、ご議論いただきたいと思う。公園についても環境というイメージがつくが、その辺りはご議論いただけないかと考える。

## 委員長

---

緑については、緑を楽しめるっていうところで含まれてくるが、道路についてはどう考えた方が良いか、むしろ皆さんの意見を聞きたいということである。如何か。

## 委員

---

いろいろ質問が出たが、私は、向日市の道路が狭く歩道も広くなく全体的に狭いなど、向日市はやっぱり道路が狭い印象はあるが、これらをテーマに入れることについてはどうかと思う。道路を広くしていくことはこの環境基本計画というよりは、都市計画ではないのかなと思う。ここに入れて、その施策を進めていくよりは、街を作っていくという、都市計画の方で進める方が有効ではないのかなと思う。緑地とか公園の問題も、確か市の緑の基本計画があり、その計画で緑地や公園をどれ位にするとか、また土地を開発する時には、まちづくり条例等があって、それを基本にやっていくのと違うかなと思う。公園が少ないとか小さいとか、緑が少ないとかいうのは、その辺りの基本計画を変えていかないと増やされないと思う。公園の数について確か都市公園が100カ所くらいあるが、それでもやっぱり全体の面積や数で言ったら、まだ少ないと思う。この環境基本計画の中に入れるよりは、他の項目がありそこでダブってくると思うので、その辺りは市の他のところで進めた方が有効じゃないのかなと私は思う。

## 委員

---

おっしゃる通り、道路などは都市計画である。

「環境」を市の頂点に置き、その下に都市計画や諸々の部局を据えるといった全体の体系、構造にしたら、様々な問題や改善を一元的に検討しやすくなると思うし、スピーディーに事を進めることが市民サービスにつながると思う。

また「環境基本計画」は私自身もその存在を知らなかったが、アンケート結果でも7割の方が知らなかったと回答しており、やっぱりそうかと合点がいった。

作って、それを検証しながら、常設の委員会みたいな設けて、見直しなどをしていった

ら、更に良いと思う。あとワークショップも、若い子たちにも参加できるような、やわらかい感じの勉強会みたいなのができたらいいなっと思ってている。

## 委員長

---

緑のことと道路のことについてどうするか。事務局で検討してもらいたい。

## 委員

---

細かいところはお任せすることを前提に、他の計画で書き込まれるであろうことは私も理解できるが、一方、例えば交通の基本計画で、もし安全が優先されるのであれば、そもそも車を出来るだけ使わなくても、「歩行者で過ごしやすい街」のような主旨の言葉が、他の基本計画で全面に出されていても良いと思う。環境基本計画の流れが変わってきて、「環境問題を環境問題だけの課題として取らえることはやめよう」ということが、国の第5次環境基本計画から出ていると思う。地域の課題と考え、環境の課題を解いていくことが向日市の環境基本計画と思っている。詳細に関しては交通計画に書き加えるにしても、主旨として歩行者や公共交通は優先されて、自動車の削減に繋がるまちづくりを行うことは、環境基本計画に書くべきだと思う。判断はお任せする。

## 委員長

---

確かに「歩きにくい街であるので車に乗るか」となると、今度は車を増やしていく方向になるので、そういう意味では安心して歩けるということが車を減らすことにも繋がる。或いは安心して自転車に乗れるのが車を減らすことに繋がると言うことであれば環境の分野である。今日は結論が出ないかと思うので、また各課との調整もあるだろうから、検討をしていただくということでよいか。環境基本計画を7割の方がご存知ないのでということで、今後、それを検証していく形でPDCAをまわしていくようなことになってくると思う。それについてはここで議論するのか、或いは環境基本計画の最後の方で議論するのか。これについて意見はあるか。今の時点でこれを記憶に留めておいて、また今後どうこれを動かしていくのか審議していくことについて、必ず後日しっかりと話し合う、こういう置き方でよろしいか。

## 事務局

---

了承した。

## 委員長

---

以後の議題とするので、よろしくお願ひしたい。

## 委員

---

資料1の「基本目標—生活環境」の「公害のない健康に暮らせるまち」について、この公害という名前・言葉が、1960年代或いは70年代をイメージしてしまう。私も環境を教える立場であるが、最近この表現を活用したことはない。歴史上は日本国内では使うのだが、向日市はどのような定義で使われているのか。

## 事務局

---

前計画の言葉をそのまま準用しているというところがある。10年前の考え方を、今使ってしまうということなのかも知れない。もし良い言葉があれば、お教え願ひたい。

## 委員長

---

これはどの市でもこういう環境の質ということで、いわゆる昔から使われている典型 7 公害として環境の質については継続して見ている状態。例えば化学物質がどこかで漏れ出た場合に、それをきっちりチェックしていくとか、水路に油が流されたらチェックしていくとか、環境の質をコントロールする場合に公害とかは使わないが、何か良い表現はないか。

## 委員

---

確かに、最近の計画で公害という言葉はあまり見ない。どうしたら良いか。良好な生活環境みたいなポジティブな言葉を使うのかどうか、良く分からない。

## 委員

---

確かに公害という言葉を使うことはあまりないと思う。環境に豊かな生活が出来るまちづくりなど「環境」の言葉をメインに使うのか、「SDGs」のような言葉を使うのか、他の事例についてもお調べして、事務局に別途、提案させていただければと思う。

## 委員長

---

イメージに合わないので言葉を探すことでよろしいかと思う。

## 委員

---

全く今まで触れられてこなかったと思うが、今も保健所さんの名前が出たので思い出したのだが、野良猫とか野良犬とか、犬はあまりいないが、野良猫による生活環境の悪化により困っている方もおられるが、このようなことは何かあるか。

## 委員長

---

どこに入るか、或いは環境基本計画で扱うのかということもあるが、これについてはどうか。

## 委員

---

野良猫の関係であるが、保健所にもよく問い合わせがあるが、基本的には自然の中で生活しているということで、野生にいるものとして認識している。しかし、餌をあげる方々もあり、地域に止まる猫もいると聞いているので、向日市さんとも連携し、住民との話合いの中で、そういう事をされている方に動物愛護の観点も含めて粘り強く話をしていくなど対処している。野良猫については、基本的には自然に生存しているものと考えている。

## 委員長

---

これはこの中で扱うべきことかということであると、ちょっと議論があるところである。保健分野の中で扱うものであって、あえてここに野良猫を施策の 1 項目にあげることはないと思う。でも、重要なことなので留めていただきたい。

## 委員

---

1 点目は骨子左側の社会的背景にあたる部分に、今回の計画策定は国の第 5 次環境基本計画だと思う。国のその計画やそれ以外を受けて考えたのであれば、その部分に持続可能な社会の観点が入ってこないといけない。先ほど話したように、環境経済社会の根本的向上をか

なり打ち出さなければならないことを、国が大きく方向転換したあとにできる計画なので、それを必ず書き込んでいかなければいけない。他の市町村もこれを入れた形で環境基本計画を策定している状況である。2点目は、むしろ質問であるが、計画体系の中に気候変動対策の推進や気候変動対策の強化が主な変更の視点に入っているが、ゼロカーボン・脱炭素という言葉がこの骨子の中に入ってくるべきかどうか。これに基づいてこの後から具体的な方向が作られていくのであれば、この時点ですべての方が良いと思う。これも、ここに書いて無いが本文に入れる予定なのであればお任せする。

## 委員長

---

1点目国の環境基本計画に基づくならば、持続可能なまちづくりというものを前面に出していかなければならないということで、そうだとすると「10年前に作った基本計画の枠組みを少し変更するが、大体10年前を踏襲する」ということだとすると、その後には抜本的なところを組み込むのであれば、どう組み込むのか、またそうだとするとこの計画体系、基本目標、施策の方針等まで影響してくる可能性があるが、この辺り今ここで答えられるかどうか。事務局はどうか。

## 事務局

---

その辺り、コンサルタントとも相談して、検討したいと思う。

## 委員長

---

いろんな書き方があって、例えば冒頭の部分でこういうことが重要だと言って、中身が変わってないという計画も結構ある。逆に、むしろ国の方は表看板から中身を全部変えるという流れである。

## 委員

---

どこまでやるかは、現実的な対策を対処してもらえば結構かと思う。我々として、理念は絶対にぶれてはいけないところである。書き込むところは書き込む。基本的には社会情勢の箇所に書き込んで、本文のところに入ってくる解釈でよろしいと思う。もし添えるのであれば、2020年から本格施行された小中学校の環境学習指導要領の中にも、「教育の目的は、持続可能な社会の作り手と担い手、育成である」と書かれており、教育関係でも持続可能の言葉を2020年から出している社会情勢を考えれば、ここでその話を入れたいことは無い。社会情勢に入れて、計画体系の中に言葉を散りばめる現実的な対処が良いと思う。

## 委員長

---

重要な点であるので、今の教育の方向も今回のアンケートで明らかになったように、中学生の皆さん方の環境意識が右肩下がりであることがわかっている中で、やはりその担い手という言葉を出されたが、そういう意味では、ここで作っていく環境基本計画が実行力を発揮していくようなものになっていくことが大事である。今の大事な意見、もう一度事務局としては検討していただけるか。それからもう一つ出していただいた気候変動の緩和策の推進というところに、ゼロカーボンという概念が明確には打ち出されていないということであるが、これについては施策の段階というのか、むしろ施策の方針なのか、どんな考えか。



## 委員

---

どこまでどう書き込むかについて明確にあるわけではないが、基本目標のところは脱炭素に向かう適応策、策定目標は2030年であるが、2050年のカーボンゼロが全面に出た上で、そこまでのステップとしての2030年である位置づけがどこかで出来てくれば良いと思っている。

## 委員長

---

了解した。実際には基本計画があと10年間生きてくるということで言うと、10年後の2030年はこの計画の実施の後に現れてくる世界なので、とても強くゼロカーボンということを意識していかなければならないわけであるが、先ほどの持続可能なまちづくりと同等に、先ほどから何回も出ている「この環境基本計画が過去10年間ほとんど知られてなかった」ということを含めて、もっと強くアピールしていく。そういう意味では、その書き様を工夫していくという事でもよろしいか。では、事務局でその点よろしく願います。

## 委員

---

市が使っている電力のことだが、先ほどちょっと説明いただいた「中国電力だったのが12月から関電になる」ことである。原子力発電由来の電気を使うということになるのか。関電だと、入札とかで安く使える電気があるのは良いとは思いますが、ここで自然エネルギーをきちんと使っていく向日市であって欲しいと思っている。京都府内で自然エネルギーを作っているところから買って京都府内でお金を回すなど、いろいろな良い方法があるので、出来れば安いことよりも、ゼロカーボンに向けて使っていく電気を考えていきたいと思うが。

## 委員長

---

これを今ここで議論しても良いのか。温室効果ガスは、排出削減目標については議事2の2のことなので、後で必ず話すということでもよろしいか。

## 委員長

---

他にどうか。もし、特に無ければ「温室効果ガス排出削減目標について」という議事に移ってよろしいか。

## (2) 温室効果ガス排出削減目標について

### 事務局

---

(資料説明 「温室効果ガス排出削減目標について」 (資料2))

### 委員長

---

環境計画の中でも温室効果ガス排出削減目標というものがあり、3ページにある目標案、事務局から提案いただいた3つの目標値で、どれするかという問いかけである。議論は難しいところではあるが、これについて意見はあるか。

### 委員

---

何もしなかったら、対策をしなかったらというのがBAUなのか。基準年度は2013年にする

ということ、目標案の1・2・3、基準年度である2013年から40%削減、42%削減、46%削減ということによろしいか。確認である。

## 事務局

---

その通りである。

## 委員

---

案が3つ出ているのであれば、一番下を選ぶのはちょっとどうかと思う。長岡京市が40%削減目標にしているし、これから国は46%削減を目指しているのであれば、やはり高いところを目指していった方がいいと思う。特に2市1町として考えても、やはりその中でトップ行けるようになったら良いと思う。このままでいったら、全然変わらないので、そこをきちんと行動していけたらいいなと思う。50%にしてトップにいったらどうか。

## 委員

---

この目標について意見させていただく。3つの目標の数値について、私は事業者として参加させていただいているので、大変厳しい数字と感じる。理由はやはり温室効果ガスの削減は、再生可能エネルギーの利用や森林の吸収であるが、吸収量について、向日市は少ないと思う。向日市の森林面積では削減の40%を掲げた場合、これから、対策ということで、この方針の具体をたくさん作らないと到達しない数字ではないかと考える。

## 委員

---

目標値が3つ出ているということで、40%、42%、46%ということだが、市としては実現可能なものと考えているのか。

## 事務局

---

市だけでは不可能ではないかと思っている。もちろん、国の施策や、事業者の方のいろんな開発であってそういう技術がないと、市だけでは不可能ではないかと考えている。

## 委員

---

もう一つあって、仮に高い目標値に設定した時に、それがもし仮に達成できなかった場合には、何かペナルティみたいなものがあるのか。

## 事務局

---

あくまでも目標であるので、決してペナルティがあるとは思っていないが、目標に対してどういう施策で取り組むかということである。

## 委員

---

確認した。

## 委員長

---

これは全体に関わることであるかどうか。

## 委員

---

40%削減というのも非常に厳しい数字ではないかと言われていたが、私もそのように思う。今からだと、約10年で40%。そして、2050年までにゼロにする。ということは31年から50年まで約20年あるが、そこまで最終ゼロにしようという目標を国が出した。これから、31年までのあと10年間で目標設定するのであれば、私は一番少ない40%。ここまで到達するのか、非常に厳しいのではないかと思うが、この3つからではそれを目標にしたら良いのではないかなと思う。

## 委員

---

この3つから選ぶのであれば、3番目の46%以外はあり得ないと思う。もっと言うと46%では分かりにくいので、50%と言ってしまって良い気持である。理由については幾つかある。気候変動に関しては人間が起こしていることは間違いがないことが、この間の報告書で出たばかりである。目標を達成できなかった時のペナルティはあるかの話であるが、法的なペナルティは無かったとしても、それは向日市にとって水害が劇的に増えるとか、人の命と財産が奪われているペナルティがそこにはあると考え、この審議会としては議論をすべきであろうと私は思う。出来るか出来ないかの話は、勿論厳しいと思いながらではあるが、これをやらないと、結局、今の子供たちにつけを残すことになる。「私たちは出来そうでなかったので目標を下げた。あとは子供たちに被害を被って欲しい」というメッセージになることを私は出来ない。46%でなく50%にしなければもうダメだと科学的に言われている。

2つ目には、周りの市町村や国ではどうかとの話であるが、国は46%と出しているが、46%と言っているわけでは無く、50%を目指したい、46%以上と表現しているもので、そこら辺りには注意して欲しい。これ位やらないと間に合わないことは分かっているので、やっていく話である。近隣市町村も計画の改定をしていく中で、少なくともこれ以上を出さなければならない数値を打ち出している。その中で、たぶん京都府が出しているから揃えようという話であるが、その間に周りが46%以上にしていることは明らかで、向日市が一步引くというメッセージを発することになりかねない。先ほどから市民に向けたメッセージが必要だと言っている中で、近隣市町村から大きく劣る数値を掲げることは、メッセージ性からしてもやめた方が良く思う。最後に、持続可能な開発の概念と絡めた話であるが、先ほど活動量をどうするとの話があったが、エネルギーというところで、大きな可能性がなければならぬ。イオンさんも消費する電力は全て再生可能エネルギーで賄う、要は使う電力はCO2ゼロでやることを既に宣言されている。このような取組は非常に先進的で良いメッセージだと思う。それに向けて実践的に動かれている。そうした活動量を減らすだけでなく、エネルギー源を変えていくことによって目標が達成できて、かつ今20兆円と言われる海外からのエネルギー費用を、国内のエネルギーに投資することになることのメッセージ性を含めて出していかなければならない。

## 委員長

---

他の委員、如何か。

## 委員

---

小学校の方が、みなさんのお話聞いてやはり危機感が学校の方にはまだ無い。無いとい

うか、すごく勉強している。SDGs ってどんなものか。持続可能な社会はどんなのか、子供たちは本当に毎日社会や総合的な学習とかをやっているが、今、この具体的に数字を挙げられて、本当にこれしていかないと、自分たちの命に関わってくることまでが、ちょっとまだ弱い。だから、企業の方で、新しい環境にやさしいものを作っていたりしているが、一般家庭や、子供たちの生活、特に中学生のこの結果を見ると、節電する意識はすごく減っている。今から 10 年前はすごく環境のことについて学校で結構力を入れてやっていて、知識がいっぱいあるが生活に繋がってない場面がたくさんある。やっぱり向日市がこうやっていくという、メッセージをいただいて、皆でやっていくような“うねり”を、せっかくの策定委員会のこの中で、小学校中学校、家庭にも啓発できるようなものになったらよい。この目安も、46% 頑張ろうっていうような意識があったら良いのかなと、学校の方から思う。

## 委員

---

向日市の区の方で役をいただいているが、全体的に皆さんの意見、なるほどと聞いている。私は大変勉強不足だが、今、おっしゃったように、私の家も小学校の近くだが、最近では以前と違って、環境の方の危機意識をあんまり持ってないと感じる。先生方がさぼっているみたいな感じは全然ない。ちょっと水道水の蛇口が漏れても、用務員さんとか事務員さんが直すなど細かいことまで行っている。コロナが収束する最近、危機感がだんだん薄れているように感じて、環境に対して知識は非常にあるのだが、何か自分自身が慣れてるように感じる。

## 委員

---

この3つの目標だが、やはり本当に難しいものだと考えている。行政だけの力では本当にできないものもあり、ここに代表として皆さん委員として来ていただいているが、市民全体、事業者の方、関係団体一同になって、それに加えて京都府、国の条件がそろったところで、40%いけるかどうかというようなことだと聞いている。目標を、達成できる目標にするのか、それとも高くを目指すか、本当に難しい議論になっていると思う。今、本当に話を聞いていて、行政としてできる限りのことは、本当にしなくてはいけない。組織としても、全庁的に各部門の施策すべてに環境問題の視点を取り入れるということは大切だと考えているが、果たして、それを皆さんでやっていく目標にするのかどうか、この場で議論していただいて、考えていただくことが必要というのは感じている。

## 委員

---

京都府の目標値が 40%削減であり、今説明のあった3つの中で一番低い数値となっている。これまで意見を出された委員が話されることと同じように、高い目標を掲げてそこを目指していくことは、方針を示すにあたってはとても良いことだとは考える。ただし 46%削減、50%削減とした時に、それぞれの具体的な行動目標というものがセットになってくる中で、様々な関係機関や住民の方々に、なるほど、これだったら頑張ろうと言う具体的な取り組みが出てくるかが課題だと思う。高い目標をもって全体として取組みの結果として 45%を超えるような結果が出てきたらよいと考える。

## 委員長

---

全体をまとめるということも難しいが、やはり高く掲げて、それを旗印にあらゆる力を、総力を挙げていくという方向なのか、それともこの方法だったら達成できるという程度でい

くかに大別できるのかと思う。実際のところどちらにしても非常に難しいのは間違いなく、原稿3ページの図にあるように、一応、2013年度を基準年度にするのだったら、現状で既に24.9%は減らしているから、あと10年間で15%減らせば良い。つじつま合わせでいうとそういうことになる。そこまでだったら、15%から25%ぐらいをこれから10年間で減らすようなそんな雰囲気である。アンケート見ると「1割ぐらいだったら減らせるんじゃないか」という答えが市民や事業者の方からも出ているので、それと差し引きでいうとあと5%から15%ぐらいを、どれだけみんなで頑張るかというこういうことになる。最後の詰めを一生懸命して、こんな形になっていくかと思う。如何か、これは多数決に馴染むのかどうか難しいが、やはり、危機感を表していくということがあった。また、身近な小学生とか中学生とかの行動を見ても、果たして大丈夫かを感じる。危機感がだんだん、慣れっこになって消えてしまい、特にアンケート調査を見ると、「ゲームはやりたいからそのゲームの時間を減らすことはしたくない」とか、「クーラーは好きだからクーラーは止めたくない」とか、そういう「私の生活が第1」という考え方がみなぎっている社会に変わりつつあることから言うと、全体に厳しく掲げていくことも大事かと思わせていただいた。

## 委員

---

参考までに申し上げます、当社は全世界のグループで2030年までに50%削減としている。カーボン・ニュートラルは2040年度までに実行することを発表している。

## 委員長

---

企業として貢献してくださっている。ありがとうございます。

非常に心強い発表をいただいた。そういうことでいうと、産業分野の世界では本気を出しているということであり、これからその方向に向かっていくということであれば、46%削減値を目標にして良いのではないかと。如何か。それでよろしいか。

## 委員

---

50%は無しか。

## 委員長

---

如何か。新しく50%。

## 事務局

---

事務局の目標案ということで、46%を採用したいと思う。

## 委員長

---

ということであるが、10年間これでいくということだが、国の情勢がどんどん進み、今の意見のように、取り組みも高まっていくと思う。そういう意味では、途中で見直していくことも可能であり、また必要だと思う。もしよろしければ、「目標案3」で合議させていただいてよろしいか。

## 委員全員

---

(拍手)

## 委員長

---

ありがとう。では「目標案3」をこの審議会として提案させていただく。

先ほど出ていた意見に関係するが、従来、中国電力から市は電気を買っていたが、それをCO2排出量が少ない関電に変えていくと。その関電の電気のCO2排出量が少ない理由は原発によっているからではないか。それをどう見るかという事について何か意見があるか。

## 委員

---

やはり地元で電気を作っていかなければならない。当面は調達する電気もメッセージ性のあるものが良いのではないか。そこは賛成である。具体的に言えば、今後再エネを増やしていくのに役立つ電気を供給することを重視して選ばれると良いと思う。例えば、向日市の住宅に太陽光発電の電気を調達して小学校等で使ってもらう。そのことが進んでいくと、住宅で太陽光発電をすると向日市の教育のために役立つのかと言うメッセージを発することになって広がっていくと思う。CO2が低いとかの数字だけではなく、メッセージに繋がっていくことは良いと思う。付け加えるならば、具体的な政策に入ってくると思うが、市庁舎に調達していくような電力について、外から買って来るだけではなくオンサイド PPA 若しくはオフサイド PPA 方式で、自分たちで作っていくことに取組んでいく必要があると思う。その辺りも書き込める計画になっていくと良いと思う。

## 委員

---

2点ですがちょっと細かくてすみません。資料2の1ページの表であるが、31年の目標年度のところの増減率、どう計算をしたらこれになるのかというところを教えていただきたい。あともう1つが、活動率で民生とか、運輸部門、店が増えて運輸が1とそのままだになっていると思うので、おそらくこのところで、例えばこの資料の参考資料の1の15ページを見ると、運輸部門の2018年の自動車ガソリンが63.1%、軽油で21%となっているので、おそらく、例えば電気自動車などになると、排出原単位が変わってくるので、この活動率がそのままでも排出量が下がっていくのではないかとか、あとはその他の都市ガスとか、軽油とか、或いは電力などがあるが、そういったところで、私たちの行動を変えると、そこでまたトータルのCO2が変わっていく。行動が一緒でも、何か選択することによって減るといいうところも、1つアピールしておけば、市民の方も行動に参加するっていうところになると思う。一律同じ、或いは、そういう活動量に対しての割合にしてしまうと、行動にしなければいいということになってしまうので、それじゃなくて、必要なものはして、あとは変更、中身を変えることによって変更していく、そういうふうにすると数値の計算方法の結果も変わってくるのではないかと。細かくいろんな計算はあると思うが、研究の立場から言うとそのようなこともできるのではないかとということである。

## 委員長

---

今の2点について今この場で答えられないか。かなり積み上げてこの結果を出しているのでもし、次の機会に宿題にして、もう一回見直していただくということもあるかと思うが、そういう扱いでもよろしいか。緻密に見ていただく必要があるので事務局にお戻りする。それから先ほど委員からもおっしゃっていただいた、エネルギーのオンサイトのエネルギーを使うだとか、様々な工夫がある。今、おっしゃったのは、原子力が混じっているんじゃない

かとか、そういう議論もあるが、広い目で見ると、そのエネルギーの購入の仕方についても、もっと幅広く見ていった方が良いという、今日はそのぐらいの結論にさせていただいてよろしいか。確かにエネルギーについては、オンサイトのエネルギーをどう使っていくかとても大事なことであり、原子力についても、例えばこれは非常に二分する意見の対立がある。それらのものを当初は含めながら、時間をかけて本来の健全なエネルギーにシフトしていくような、時間の流れの中で検討してくことも大事かと私自身は思った。現在は原子力エネルギーが含まれているから CO2 が低い、だから駄目だ、という議論で納めるのは難しい。まだまだこれから議論の機会があるので、そういうことも含めて話し合っていければと思っている。

本日の議事については終了させていただきたい。ここで言うておきたいことはあるか。

それでは、この2つの議案を終わらせていただきたい。次回の策定委員会の開催予定等について案内をお願いします。

## 事務局

---

では、今後のスケジュールについて説明する。

会議の冒頭に触れたが、計画完成は今年度予定していたが、来年度に跨る予定となっている。今現在、市役所の横の繋がりを強化するため、庁内会議を立ち上げたところである。本日の策定委員会で決まった目標や施策方針に基づいて、市としてどういった施策ができるのかということ、この後庁内会議の方に投げかけて、各部局から出た施策案を次回の策定委員会に出して、資料に反映できればと思っている。次回第3回の策定委員会は、年明けの1月中のどこかを予定している。具体的な日程について改めて連絡をさせていただく。

## 委員

---

質問1つよろしいか。庁内で検討会をする時に勉強会などを行って、庁内で共有することはあり得るのか。市の中でも皆さんで勉強会をされたら良いなと思った。

## 事務局

---

また庁内での勉強会とかについては、またおいおい考えていきたいと思う。今、ある程度決まっているスケジュールとしては、先ほどご紹介いただいた内容となっている。

## 委員長

---

知識があるかないかで、判断するところが大いに変ってくるので、情報が入ってないと、例えば今日の議論でも低いレベルになり得た。特に企業はすごく早く最先端技術の知識を捕まえて、どんどん施策を打っていかれる、ということもあるので、今の意見も参考にさせていただきたい。

今日は本当に活発なご意見いただきありがとうございます。会議がスムーズに進行することができて感謝申し上げます。それでは本日はこれにて閉会させていただく。

## 4. 閉会

以上